

### 高度な研削技術を土台にした 3つの事業を展開

——まず、御社の事業内容として、社長を教えてください。  
野上…大きくは3つあります。1つは精密機械部品、たとえば電線などの圧着機の部品。2つ目は、精密治具の設計製作。そして3つ目は、精密プレス金型の設計製作と精密プレス加工です。  
特長としては、圧倒的な精密加工技術でしよう。例えば、精密加工の現場に欠かせないツールに、マスタブロックと呼ばれる基準器があります。これは、分りやすく言うと平行と直角をとるための道具で、検査工程で使います。文字通り基準として使うので非常に高い精度が求められますが、当社の製品は10000分の5mm以内という、国内トップの平行・直角精度。大手の工作機械メーカーさんにも、ご採用いただいています。

——まさに「ニッポンのモノづくり」ですね。そこまでシビアな結果が求められる、モノづくりの楽しさとは何でしょうか。  
野上…まず、自分のイメージ通り、またはそれ以上のものができたときの達成感じゃないですか。もちろんお客様の厳しい要望に応じて、喜んでいただいたときも。これはどんな仕事にも言えると思いますよ。

私は大学卒業後にそのまま入社、すぐに専務で、会社の新しい取り組みはほとんど任されてきました。大変なこともありましたが、売り上げがよくなった、お客様に認められてそれが数字に表れたりすることで、大きな達成感が得られたもので



たくさんの若手が活躍して、活気ある工場内

### 若い人たちに育てることに注力

——若い人や新人の育成はどうやっていきますか？  
野上…工場は若い人が多く、若い人には居心地がいいと思いますよ。派閥がないので、先輩・後輩の風通しがいいのも特徴。先輩もよく後輩の面倒を見るので、仕事がハードなのに、若手がよくついていきます。

制度的には、今後、部門間の人的交流を活発にして、社員の多能化を図っていく予定です。いろいろな仕事にチャレンジして、人間的に成長してもらおうとともに、その過程で自分に合った職種も見つけてもらいたい。技術面では、他社では習得に10年以上かかる難しい技術でも、当社のノウハウを使って2、3年で習得可能です。

評価では、一生懸命やっている人や成果を出している社員には、賞与で応えています。また、賞与や昇給時には全員と面談して、私達の評価を伝え、励まし、本人が次に向かって頑張れるよう気を配っています。

す。子どものころ、プラモデルを完成させたときの達成感とは、もちろん比べものになりません(笑)。

### 幼稚園で描いた絵に「あとつきになる」と書いた

——子どもの頃からモノづくりに興味があったのですか？  
野上…図画工作は好きでした。夏休みの研究で、モーターで動く相撲の作品が表彰されたこともありました。何かを作ることが好きで、中でもプラモデルは大好きでした。

——後を継ぐという自覚はいつ頃から？  
野上…本当に小さいときから周囲の人に「2代目」だとか「若社長」とか言われてましたから、自分でも何となくそうなるんだなと思っていましたね。幼稚園のときの絵かきで、父の後ろ姿を描いて「あとつきになる」と書いたこともあります。さら

に中学校時代から工場バイトをしたり、お客様に会ったりもして、しかも大学を卒業するまで自宅と工場が同じ場所にあったから、これはもう決まったようなもの(笑)。ただし、学生時代はサーフィンがっつりとはまっていたんですが。

### 技術をソリューションにして提供

——2代目として今後、会社をどう舵取りしていきたいと考えていますか？  
野上…これまでは、お客様が図面を描いてきたものを作る加工が主体でしたが、これからはもっと設計にも絡んでいきたいですね。自分たちの技術力はよく分かっているわけですから、設計から関わることで、デザインやお客様の使い勝手まで考えて「こんなものもできますよ」と提案していく、いわゆるソリューションの提供です。

中国に伍していくのはやはり難しいと思います。中国にない付加価値を提供しなければ、競争に勝つてはいけません。ソリューション提供で差別化を図る意味からも、設計に力を入れていきたいですね。

——営業力の強化も必要になりますね。  
野上…そうですね。でも物理的に強化するのはなく、現在はネットを活用しています。4年前にホームページを立ち上げ、SEOをしたうえで発信しています。以前、飛び込み営業をしていたとき、資材部門の担当者には会えるのですが、肝心の技術者には会わせてもらえませんでした。その技術者はというと、自分でグーグルやヤフーを使って必要な資料を探しているんですよ。その経験から、技術者に直接アピールするにはネットがいいと思ったわけです。今では「超精密治具」で検索すると、トップに当社が表示されたりし

# 付加価値を生むモノづくりを目指す 野上良太



〈単なる加工からソリューションへ〉



#### Profile 野上良太 (のがみ りょうた)

1968年東京都生まれ。幼少の頃から家業を継ぐことを決めていたという2代目社長。東海大学文学部在学中も、趣味のサーフィンのかたわら、金型製作会社で修行して新技術の腕を磨いた。2006年9月、父親が65歳になったのを機に社長就任。トップとして日本の技術を支えてきた製造業の、新たな可能性を切り拓こうとしている。

### 世代交代の力になってもらいたい

——最後に、これから就職活動を行う学生の皆さんにメッセージを。  
野上…若い人たちがサービス業や流通業に流れ込んでいくのを見るのは、残念ですね。もっとモノづくり、製造業に興味をもってもらいたい。人間は本来、モノを作ることの楽し

さや達成感が、大きな喜びであるはずなんです。もっと、その喜びに関心を持っていただきたいですね。

逆に、私達も製造業のイメージを変えていかなければならないと思っています。2007年問題が騒がれていますが、中小の製造業でも、これからダイナミックな世代交代が始まるでしょう。ITスキルや間接部門の人材も必要になってきます。

それだけにやりがいもあるし、チャンスも多い。大手企業では1つの駒ですが、中小の元気のいい企業に入れば中心的役割を担えるわけです。そこで若い経営者を、右腕となつて支えるような人材の登場に期待しています。進路を絞り込むに当たって、展示会でもホームページでも、まず当社をじっくりと見ていただきたいですね。

#### The Management Data File

#### 経営者データファイル

お名前……………野上 良太  
生年月日……………1968年3月22日 東京生まれ  
身長……………168cm  
体重……………67kg  
平均睡眠時間……………6時間  
平均起床時間……………午前6時半  
趣味……………サーフィン  
乗っている車……………ランクル

家族……………妻、子供3人 (1男2女)  
今までに訪れた国……………12カ国  
購読雑誌……………日経ビジネス  
尊敬する人……………父親  
今日の財布の中身……………8万円  
好きな食べ物……………うなぎ  
嫌いな食べ物……………なし



ベテランの熟練した技術が若手へと受け継がれていく

ここまで淘汰されて、今なお残っている中小というのは、どこにも負けないものを持っているんですよ。



野上技研の精密加工技術は、国内でもトップクラス

#### 会社概要 株式会社野上技研

本社所在地 ● 東京都目黒区目黒本町5-9-3  
工場所在地 ● 茨城県常陸大宮市泉1136-3  
創業 ● 1970 (昭和45)年 資本金 ● 1,000万円  
事業内容 ● 精密機械部品製造、各種超精密治具製造、精密プレス順送金型設計製作、精密プレス部品加工  
従業員数 ● 52名  
URL ● <http://www.nogami-gk.co.jp>



就職情報はコチラ